

和田 武先生のご退職にあたって

國廣 敏文*

和田先生のご退職・最終記念講義にあたりまして、学部を代表して先生のご経歴を中心にご紹介させていただきます。

和田先生は、1960年代前半に、京都大学工学部ならびに同大学工学研究科で高分子化学を学び、研究してられました。修士課程修了と同時に住友化学工業に入社され、同社の中央研究所研究員として15年間勤務されました。そこでは高分子合成分野での研究に従事され、同社に勤務されていた間に、国際雑誌に掲載されたものを含めて約60編もの論文を執筆されています。製品開発の面でも9件の特許を取得され、その中の一部は製品化されて現在でも広く使われているそうです。1975年には、大阪大学から工学博士の学位を授与されています。その後、1980年に大阪経済法科大学教員に就任され、同大学の助教授・教授を経て、91年から愛知大学教授、96年4月に立命館大学産業社会学部教授として赴任されました。本学では「環境保全論」、「環境社会論」、「現代環境論」などを主に担当され、今日に至るまで10年間教鞭をとってられました。先生は、環境問題という産業社会学部の基幹分野の中心的存在であり、本学部の“看板教授”の一人として、多くの学生・院生を育ててられました。大学に移られてからの先生は、それまでの化学者としての知識と経験をもとにしながら、問題関心を地球環境や環境保全の問題に広げ（ともするとそういう問題は自然科学的なアプローチに傾斜しがちですが）、地球的な視野に立った総合的な面から講義・研究されてきています。

言うまでもなく20世紀という時代は、経済や科学技術を見ますと、エネルギー革命や情報革命という言葉に表されるような“科学技術革命の時代”であり、人類は大きな発展と進歩を遂げてきたわけです。こうした発展の一方で、地球的規模での貧富の差の拡大や人口増加、環境問題、テロや紛争、民族問題など深刻な問題が生起してきています。中でも地球環境にかかわる問題は、地球温暖化の問題をはじめとして、この20世紀の間に急速に悪化して我々の未来に暗い影を投げかけていると言えます。地球環境の悪化にかかわる諸問題の解明と解決というのは、我々人類の未来を考える上で避けて通ることができない極めて重要な、しかも緊急を要する政策課題となってきました。

和田先生は、こうした時代状況と課題に対して、地球環境問題の解決や環境保全の問題と持続的

* 立命館大学産業社会学部長

な社会発展（「持続可能な社会」の構築という課題）を、市民参加型・地域主導型の再生可能エネルギーの導入と普及の方法で克服するという方向性を、それまでの先生の経験や海外での調査研究の成果を活かして理論的・実践的に一貫して提起され、極めて多くの著作や成果を発表されてきました。

他方で大学内での行政や教学の点でも、就任された翌年の97年度から3年間、総合基礎教育センター長を務められ、2002年度には研究科主事と大学院委員、さらには2003年度から2年間は大学の教学の最高決定機関である大学協議会の委員を務められるなど、立命館大学の発展と教育・研究の推進のため大きく貢献されてきました。着任以後、毎年重要な役職を務めてこられたわけですが、それは先生の責任感が強いこと、皆から信頼されているからこそであると考えています。

また、学内だけでなく、学術活動として、日本科学者会議の環境問題研究委員会委員長、日本学術会議自然保護研究連絡委員会委員、日本環境学会の編集委員・近畿支部幹事などを務められています。社会的にも、京都府、兵庫県、滋賀県、吹田市、野洲市など環境関連の委員会の委員長や委員を歴任され、現在も幾つか務められています。環境省や経済産業省、自治体、NPO などでも環境問題に関する多くの講演活動を行っておられ、テレビ、新聞、ラジオなどを通して、地球環境やエネルギー問題に関しての“オピニオン・リーダー”として積極的な発言や提言を行うなど、専門知識と経験を活かした活動と貢献をなされておられます。

このように和田先生は、教育・研究、大学の公務、社会的諸活動、それぞれの面で大いに活躍されてきました。先生は今年、定年を迎えられますので、「長い間お疲れ様でした、ゆっくりしてください」と申し上げたいところですが、まだまだお元気ですし、環境問題、エネルギー問題には情熱と使命感を持っておられますので、そういう意味では、今後も力を貸していただきたいと思っています。幸い、先生は4月から立命館大学特別招聘教授の肩書で、引き続き本学ならびに研究科で教育を担っていただけることになっていますので、今後とも教育・研究面でお力添えをいただけることと期待しています。

私たち学部にいる人間としましては、和田先生のこれまで取り組んで来られた諸課題や問題意識を我々のそれぞれの立場から引き受けながら、今後の研究の推進と学部・大学院教育に邁進しなければならないと決意を新たにしているところであります。これまでの先生のご業績に敬意を表しますとともに、本学部ならびに大学へのご貢献に感謝いたします。先生、これまで10年間の長きにわたって、ご尽力いただき本当にありがとうございました。これからもお元気でご活躍ください。以上をもって、学部を代表いたしまして、先生のご経歴のご紹介と先生への謝辞といたしたいと思えます。どうもありがとうございました。